

第2回 網走市学校再編検討協議会 議事録

日時：令和8年7月28日（火） 18:30～20:40

場所：エコーセンター 大会議室

出席者：協議会委員 千葉委員長、澁谷副委員長、大林副委員長、井坂委員、米谷委員、伊東委員、大庭委員、田宮委員、鳴海委員、中田委員、竹林委員、山崎委員、立崎委員、多田委員、中一委員、山中委員、佐藤委員、上田委員、上野委員、山根委員、吉田委員、福田委員、蔦林委員、黒田委員、水澤委員、中坪委員、猪澤委員、西谷委員
網走市 木野村教育長、高橋部長、小中次長、佐藤課長、八百坂参事、中野参事、北村係長、永山係長

(株)ドーコン ミツ石、藤井、長谷

1. 開会

(事務局)

- ・本日はご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございます。定刻となりましたので、ただいまより第2回網走市学校再編検討協議会を開催いたします。

2. 情報提供・質疑応答

(1) 第1回検討協議会の意見交換結果を踏まえた整理について
(事務局より、配布資料5を説明)

(2) 網走市の学校を取り巻く現況について
(事務局より、配布資料6を説明)

(委員)

- ・資料6の通学圏とは、徒歩で通学できる範囲という意味でしょうか。

(事務局)

- ・小学校は4km以内、中学校は6km以内を、国が示す徒歩通学圏として資料に示しています。

(委員)

- ・市街地と郊外では、歩道や信号の有無、車の通行量などの条件が異なるため、郊外では4km以内でも徒歩通学が難しい場合があります。その点をご説明いただきたいです。

(事務局)

- ・資料では、学校から半径4kmまたは6km以内として、市街地と郊外の条件の違いを考慮せずに示しています。

3. 意見交換（グループワーク）

【テーマ】

1. 多様な主体の意見把握・反映
2. 望ましい学校規模と教育環境
3. 通学環境の確保

(ドーコンより、配布資料7および進め方を説明)

(第1テーブル)

- ・課題1について、地域住民の理解という点では、依然として不信感があることが重要な課題だと考えます。この点は丁寧に説明していくほかないと思いますが、今後、協議会でもどのように意見を反映していくべきか検討していただきたいと思います。また、子どもたちに突然この話をしても理解することは難しいと思うため、具体的にイメージできるようなアンケート調査を行った方がよいという意見が出ました。
- ・課題2について、学校規模は、おおむね1学年2学級が望ましいと考えます。競争や勝敗を通じて、悔しさやうれしさを経験することも必要ではないでしょうか。1学級20人、または15人程度でも、2学級を確保できるような統合の在り方を検討できればよいと思います。また、質の高い教育という点では、思い切って小・中・高・大学の一貫した連携教育を掲げてはどうかという意見がありました。市内には東京農業大学があり、道外から来ている学生も多いため、交流を深めることで教育の質の向上が期待できます。さらに、中学生が小学生を見守るような異年齢交流の関係を幼い頃から築くことにより、地域にとっても安心して暮らせる環境につながると考えます。小・中・高・大学の連携により、都市部と変わらない教育機会を確保できるのではないかという意見が出ました。
- ・課題3について、バスの乗車時間は一概に何分とは言にくいものの、都市部の私立学校では1時間以内を目安としている例もあるようです。例えば、能取地区から市街地まで卯原内やほかの地区を経由すると1時間を超えるため、能取や卯原内から直行する形とし、1時間以内、できれば40分以内で通学できることが理想だと考えます。理想はドア・ツー・ドアですが、実現が難しい場合でも、バスで学校の門まで行く方式が安全・防犯の面で望ましいと思います。一方、必要な車両や運転手をどの程度確保できるかという懸念があります。大型バスだけでなく、小型バス、マイクロバス、ワゴン車などを有効に活用することで、児童生徒や保護者の負担を抑えられるのではないかという意見が出ました。

(第2テーブル)

- ・課題1について、保護者アンケートは、保育所や幼稚園の保護者も対象とし、園単位や地域単位で実施するとよいのではないかという意見が出ました。また、地域向けアンケートでは、市民や自治会長、自治会などを対象にする必要があるとの意見がありました。子どもの意見把握については、文章を書くことのハードルを考慮し、Chromebook等を用いた選択式の回答方法が答えやすいのではないかという意見が出ました。その結果を踏まえ、地域別ワークショップや町内会単位の説明会、定期的な地域懇談会などを行い、進捗状況や内容を知らせることで、安心して検討を進められるのではないかという意見がありました。また、統合が決定した場合は学校間交流を積極的に行い、西小学校が先行して統合する場合は、その取組や統合後の校舎活用を今後のモデルケースにできるのではないかという意見が出ました。各課題を解決するためには、情報を継続的に公開することが必要との意見がありました。
- ・課題2について、学校規模は1学年2～3学級程度とし、複数学級を確保することが望ましいとの意見が出ました。1学級当たりの人数は、文部科学省が35人学級を示しているものの、20人前後がよいのではないかという意見がありました。また、学校の在り方については、網走らしい学校を皆で考えていくことが必要であり、例えば、農業や漁業など、地域の未来につながる学習を取り入れてはどうかという意見が出ました。学校数については、特認校も含め、先に校数を定めるのではなく、皆で検討することが必要との意見がありました。
- ・課題3について、バスの乗車時間は最大でも40分程度、できれば15～30分程度に収めたいという意見が出ました。また、スクールバスの路線設定が重要であり、場合によってはJRとも連携しながら検討する必要があるとの意見がありました。遠距離通学により乗車時間が1時間を超える場合には、途中の児童館等を中継地点とし、保護者の迎えを待

てるようにする方法も考えられるとの意見が出ました。一方、冬季の吹雪への懸念もあるため、学校数と併せて学校の位置も工夫する必要があるとの意見がありました。今後、各課題を詳細に調査し、明らかになった課題を一つずつ解決していく必要があります。また、バス通学に付加価値を設けてはどうかという意見も出ました。例えば、乗車中にオーディオブックを聴くことで読書への関心につなげるなど、長い乗車時間を有効に活用できれば、バス通学に対する抵抗感を軽減できるのではないかと意見がありました。

(第3テーブル)

- 課題1について、情報をこまめに発信してほしいという意見が出ました。また、中間報告会を設け、広報紙や学校での説明会などを通じて、検討の途中経過を市民が把握できる機会を設けてほしいとの意見がありました。子どもの意見を反映する方法としては、1人1台端末を活用し、Chromebookでアンケートを実施してはどうかという意見が出ました。その前提として、子どもが内容を十分に理解できる説明の機会が必要です。また、子ども同士が意思決定や話し合いを行うワークショップのような機会を設けてはどうかという意見もありました。その際は学校だけに任せず、協議会委員が関係する学校等に出向き、ファシリテーターとして補助することも考えられます。各学校で子どもたちが合意形成を行った上で、学校の代表者が集まり、網走市の学校の在り方を話し合う機会を設けてもよいのではないかと意見が出ました。
- 課題2について、クラス替えができる規模が望ましいという意見が出ました。現行の35人学級は多く、1学級当たり20～25人程度がよいのではないかと意見がありました。ただし、実際に子どもたちを受け持つ教員の感覚として、どの程度の人数が適切かを聞きたいとの意見が多く出ました。また、特別な支援を必要とする子どもが増えているため、学級規模にかかわらず、網走市として支援体制を充実してほしいとの意見がありました。学校規模は、市街地の学校と郊外の学校を同一の基準では捉えられず、分けて考える必要があるとの意見も出ました。網走らしい学校像については、農業や漁業など、地域の人や産業と関わる学校づくりを進めてはどうかという意見がありました。各学校が持つネットワークや資源を相互に生かすことが望ましいとの意見が出ました。
- 課題3について、バスの乗車時間は1時間以内という基準があるものの、長いとの意見が多く、特に低学年では30～40分程度が限度ではないかと意見が出ました。また、バスにGPSを搭載することや、悪天候時には速やかにオンライン授業へ切り替えることなど、安心・安全も併せて検討してほしいとの意見がありました。送迎負担については、保護者による送迎やバス利用など、通学方法を選択できることが望ましいとの意見が出ました。また、距離要件を満たさない児童もスクールバスを利用できるとよいとの意見がありました。例えば、西小学校と中央小学校が統合する場合、西小学校を発着点とするバスを運行し、近隣の児童も集合して乗車できるようにする方法が考えられます。さらに、同様の課題を抱える他市町村の事例を知りたいという意見が出ました。

(第4テーブル)

- 課題1について、情報の受信と発信をよりきめ細かく行ってほしいという意見が出ました。特に情報発信では、メリットとデメリットを明確に伝える必要があります。各学校や地域に出向いて説明し、意見を聴くほか、広報紙等を活用する方法も考えられるとの意見がありました。意見の受信には、LINEやメールも活用できるのではないかと意見が出ました。また、今回のような話し合いを各地区で行うことで、保護者間の不安解消にもつながるとの意見がありました。現在通っている学校や居住地域について、子どもや保護者がどのように感じているかを丁寧に把握する必要があります。子どもの意見については、端末を用いて要望を取りまとめるほか、年齢の低い子どもの話も聞く必要があるとの意見が出ました。学校再編を、子どもたち自身が地域の将来を考える学習の機会と捉え、子ども会議や生徒会サミット等につなげてはどうかという意見がありました。

- ・課題2について、クラス替えができる規模が望ましいという意見が出ました。1学級当たりの人数は30～35人程度がよいのではないかとの意見がある一方、小規模校で良好な人間関係を築き、高校で初めてクラス替えを経験したことも有意義だったという事例が紹介されました。小規模・大規模のいずれにもメリットとデメリットがあるとの意見がありました。学級人数については、実際に現場で働く教員の意見も聞く必要があるとの意見が出ました。
- ・課題3について、バスの乗車時間は30分、40分、1時間など様々な意見がありました。児童生徒の年齢や個人差もあるため一概には決められませんが、短い方が望ましいとの意見が出ました。また、保護者の送迎負担が大きくなることも想定されるため、自家用車やタクシーで送迎する場合への支援など、負担を軽減する方策が必要ではないかという意見がありました。「どこバス」は朝の利用が少ないと思われるため、通学に活用できないかという意見も出ました。GPSを活用してバスの位置を確認できれば、保護者の安心につながるとの意見がありました。一方、運転手の確保や費用面など、様々な課題も想定されます。また、子どもだけで長時間乗車することや、吹雪時の対応について懸念する意見も出ました。

(第5テーブル)

- ・課題1について、10年という長期を一度に考えるのではなく、一定の段階まで進めた後、10年後に改めて検討するという段階的な考え方もあってよいのではないかという意見が出ました。アンケートによる意見集約も必要ですが、その方法は難しく、一部の人の声や画一的な意見だけでなく、気軽に話せるカフェのような場を設けることで、多様な意見を集められるのではないかという意見がありました。また、子どもたちが問題意識を持てるよう、オープンスクールの授業等で児童生徒と保護者が一緒に考える機会を設けてはどうかという意見が出ました。
- ・課題2について、児童生徒数が多い学校には交流機会の多さがあり、少ない学校にはきめ細かな対応ができるという利点があるため、どちらがよいとは一概に言えないものの、双方の利点を生かせるとうい意見が出ました。また、学校がなくなることで人口流出が進む可能性があるため、小中一貫校や中高一貫校とすることで学校を残し、市外への流出を防ぐことも重要との意見がありました。さらに、網走の特色を生かした学習を行うことが大切との意見が出ました。
- ・課題3について、バスの乗車時間や運行便を検討する前提として、必要な車両台数や運転手を確保できるかという見通しを示してほしいとの意見が出ました。車両と運転手の確保が可能であると分かれば、具体的な検討を進められますが、現状では不安があり、議論を先に進めにくいとの意見がありました。

4. 事務局からの連絡

(1) アンケート調査の実施について

(事務局)

- ・保護者向けおよび市民向けアンケートの修正内容について報告します。前回の第1回協議会でお示ししたアンケート案を委員の皆様にお持ち帰りいただき、修正意見を募集したところ、3件のご意見をいただきました。主な指摘は、次の3点です。1点目は、設問が学校再編を前提としており、統廃合を促す流れに見えるため、市民に誤解を招くおそれがあることです。2点目は、再編ありきではなく、現状維持の可能性も含めて賛否を問うべきではないかということです。3点目は、子どもたちや地域社会にとって、将来何が最も必要で大切かを記述式で広く市民に伺うべきではないかということです。これらの指摘を踏まえてアンケート内容を見直し、4点を修正しました。1点目は、学校再編の進め方を問う設問の追加です。「できる限り現在の学校を維持する」「郊外にも学校を残しながら統合する」「全ての学校を市街地に統合する」といった選択肢を設け、望ましい配置を問う設問を追加しました。2点目は、望ましい学校・学級規模を問う設問の追加です。1学年当たりの学級数や1学級当たりの人数など、望ましい規模を直接伺う設問を追

加しました。3点目は、誤解を招く表現の修正です。「学校再編に期待すること」という表現を「学校に期待すること」に変更し、再編ありきという印象を与えないようにしました。4点目は、自由記述欄の拡充です。アンケートの最後に「子どもたちや地域社会にとっての小中学校の在り方として大切なこと」というテーマを明記し、自由に意見を記述できる欄を設けました。以上の意見を反映した最終版が、お手元の調査票です。本アンケートは、この内容で実施に向けて進めたいと考えています。

(委員)

- アンケートを取る前に正確かつ公平な情報を出してからアンケートを実施していただきたいです。

(事務局)

- アンケート内で情報を提示することは難しいと判断しました。必要な情報は、今後の協議会で随時提供したいと考えています。

(委員)

- 網走市立小中学校適正規模・適正配置に関する基本的考え方について、各地区での説明会で指摘を受けている教育の質、財政の問題等の情報を提示した上でアンケートを実施しないと正しい結果が得られないのではないのでしょうか。
- 財政については、存続した場合の金額だけでなく、美幌町のように、新しく義務教育学校を作った場合、改修して増築した場合、給食センターやプールを新たに作った場合、解体した場合、さらにスクールバスを増便した場合などの具体的な金額を提示するべきであると思います。必ずしも再編の方が安いとは言い切れないのではないのでしょうか。

(事務局)

- まずは市民の意見を聴くことを目的として、アンケート調査を実施したいと考えています。
- コスト情報を提示しないということではなく、今後の情報提供事項として考えています。学校を再編する場合も維持する場合も相応の費用がかかると見込んでいますが、最終的な目標は財政上の問題ではなく、子どもたちにより良い教育環境を提供することだと認識しています。例えば、網走市に義務教育学校を1校新設する場合、延べ面積を14,000㎡と仮定すると、現在の単価では140億円程度かかると認識しています。
- アンケートの実施に当たり、協議会で提示していない情報を市民に示すことは適切ではないと考えています。実施時期を遅らせることはできますが、市民の意見集約が遅れる懸念があります。財政情報等を併せて示すのであれば、次回協議会で情報提供した後にアンケートを実施すべきだと考えています。

(委員)

- 教育の質について、基本的考え方に記載のある、教育の質を上げるためには学校を再編する必要があるという表現も見直すべきだと思います。基本的考え方を再配布してからアンケートを実施するべきではないのでしょうか。
- 具体的な数字に関する情報提供はいつ頃を想定されているのでしょうか。

(事務局)

- 基本的考え方は昨年12月に教育委員会で策定したものであるため、現時点で直ちに修正する予定はありません。ただし、その後の意見を聴く会や協議会で示す資料は、いただいた意見を踏まえて整理・修正しています。今後も様々な意見を伺い、適宜更新した資料を示す予定です。
- 財政情報等の具体的な数値は、第3回協議会で示すことを想定しています。

(委員)

- ・意見を聴く会に参加しなかった方がアンケートの回答をする可能性が高いと思うので、意見を聴く会の内容をアンケート回答者に閲覧できるようにしてほしいです。

(事務局)

- ・現在、第1回から第3回までの意見を聴く会でいただいた意見と回答を、市のウェブサイトに掲載しています。アンケート実施時に意見を聴く会の内容を全て紙面で配布すると相当な量になるため、閲覧できる仕組みを整えます。

(委員)

- ・アンケートは今年度1回の実施予定でしょうか。

(事務局)

- ・今年度は1回の実施を予定しています。

(委員)

- ・様々な意見を踏まえて1次アンケート・2次アンケートなどの段階的に実施する方法も考えられますが、1回だけの実施ならば、協議会の意見を踏まえ、しっかりと内容を整理したアンケート調査にするべきでないでしょうか。

(千葉委員長)

- ・アンケート時期を後ろ倒ししたスケジュールとしては、いつ頃実施予定となるでしょうか。

(事務局)

- ・協議会でアンケート（案）を示した後に実施したいと考えております。次回の協議会は9月末であるため、10月頃にアンケートを実施することになります。

(千葉委員長)

- ・慎重を期して、アンケート実施時期を2か月先延ばしするという提案でありましたが、デメリットは実施および集約が遅くなることであります。

(アンケートについて、いただいた意見を反映し次回の協議会で再提示すること、ならびに実施期間を後ろ倒しすることが承認された。)

(2) 次回の日程について

(事務局)

- ・第3回検討協議会の日程と会場について提案します。次回は、第1回検討協議会でお示したとおり、9月29日（火）の開催を予定しています。会場については、これまで市内各地区で開催した「意見を聴く会」において、エコーセンターだけでなく地域の学校を会場としてはどうか、実際に郊外校の状況を見た上で議論してほしいといった意見が寄せられました。事務局としても、委員の皆様にも郊外校の実態や地域との距離感を実際に感じていただきながら議論することは、今後の学校の在り方を考える上で有意義だと考えています。このため、第3回以降は、東部では白鳥台小学校、西部では西が丘小学校など、郊外の学校を会場として開催したいと考えています。現在、各学校と順次協議しており、詳細は今後調整します。

(委員)

- ・開始時間は変わらないのでしょうか。

(事務局)

- ・同じ時間帯で検討しています。

(委員)

- ・郊外校での18時半開始は間に合わないため遅刻が見込まれます。

(千葉委員長)

- ・遅刻者が一定数いるようなので、19時開始にするのはどうでしょうか。

(次回協議会については、9月29日(火)19時から郊外校で開催することが承認された。)

5. その他

(委員)

- ・西小学校と中央小学校の統合について早めに議論すべきなのではないでしょうか。西小学校は2年後に閉校になるという話があります。その議論が今後のモデルケースになると思うので、中央小PTA、西小PTA、学校運営協議会の意見を聴いて、協議会で考える機会を作るべきではないでしょうか。

(事務局)

- ・中央小学校と西小学校の統合時期を2年後とすることは、あくまで案であり、決定事項ではありません。そのため、先行して統合について協議することは考えていません。最も老朽化が進んでいるのは西小学校であり、早めに統合したいという考えはありますが、今後の協議会での意見を踏まえて検討したいと考えています。

(委員)

- ・西小学校に関しては、やらなければいけない改修工事を行っていないと聞いています。残すのであれば早めに動くべきではないでしょうか。

(事務局)

- ・網走市学校施設等改修計画で設定した改修年次を経過しているからといって、直ちに改修を実施しなければならないものではありません。ただし、今後も西小学校を継続して使用するのであれば、早期に長寿命化改修を行いたいと考えています。今後、ほかの学校施設も老朽化が進むため、改修せずに再編するのか、改修して維持するのかという視点を持って議論したいと考えています。

(委員)

- ・まだ何も決まっていないということが、西小学校と中央小学校で共有されているか心配です。先ほど、西小学校の校長先生は統合前提で話をしていたように感じました。該当する生徒と保護者に、正確な情報共有を行っていただきたいと思います。

6. 閉会

(事務局)

- ・以上で、第2回網走市学校再編検討協議会を終了します。皆様、大変お疲れ様でした。

閉 会